

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		次世代までの安心につながるまちづくり ～日常的な困りごとを解消し、将来の不安も軽減する取組～	宮前区
アイデア名(注2) (公開)	「高山土曜ストア」@市営高山団地集会所がスタート！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	チーム「高山土曜ストア」		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	7名		
代表者情報	黒川 勝彦		
メンバー情報	氏名(公開)	柴崎 克也、渡邊 里美、寺西 律子、松村 康一、 佐藤 美智也、船橋 健一郎	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

- 坂の上にある「市営高山団地」に住むお年寄り、**毎日の買い物に苦労**していたので、川崎北部市場から、食材を仕入れて販売会をしてみたが、長続きしなかった
- コミュニティバスを走らせることができれば、駅やスーパー、病院にも行けるが、バスの導入は難しく、時間がかかる
- 足腰の弱いお年寄りなど、あまり外出せず、引きこもりがちな住民は**隣近所との交流が乏しい**
→ 買い物に行けず、十分な食事がとれなかったことが原因で、命の危険が迫ったケースも
- 第1日曜にカフェを実施するなど、住民が集まる場を作っているが、もっといろんな年代の人たちが集まりたくなり、皆が**近所に出かけたくなる場**を作って、地域の魅力を高めたい

<解決アイデアの内容>

■ 住民・スーパー・区役所が力を合わせて「高山土曜ストア」を作る！

～坂の上にある「市営高山団地」の住民の毎日の買い物を楽にし、毎週、顔を合わせてホッとできる出張販売会～

【アイデアの概要】

市営高山団地の集会所で、地域住民有志が東急ストアの協力を受け、毎週土曜日に出張販売会を行う

【住民の高齢化に伴う様々な課題】

① 買い物が困難になった ② 引きこもり、外出しなくなった ③ 地域全体の活気がなくなってきた

→ 生活上の困難を解消し、地域を活性化する起爆剤として、**自分たちの手で「販売会」を開催してはどうか**

【この販売会の特徴】

① 住民が主体となり、**みんなで**

育てる販売会

→ 利用者の声を受け止め、変化し続ける

② **事業者（東急ストア）や**

区役所の協力が得られる

→ 良質な商品を販売のプロの協力を得て販売できる
→ 区役所が関わることで市営住宅集会所が利用できる

③ **見守りや安否確認**ができる

→ 住民の異変に気付く機会に

集会所にて出張販売会実施
(9/22・9/29)

＝次回開催は11月を予定しています＝



たかやまストア
みんなで育てよう!!

(2) アイデアの理由 (公開)

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

〔データ1〕 市営住宅の高齢化

宮前区全体では、65 歳以上の人口は 19.7%だが、宮前区内の市営住宅の高齢化率は高く、市営高山団地では 65 才以上の入居者が 52.6%となっている。

市営住宅の入居世帯数・高齢化率

No	住宅名	入居世帯数		高齢化率 (65歳以上入居者の割合)(%)	
		平成26年	平成29年	平成26年	平成29年
1	鷲ヶ峰	117	115	44.6	53.0
2	鷲ヶ峰西	235	224	26.5	39.1
3	清水台	155	144	38.4	47.6
4	菅生	157	151	36.0	45.7
5	高山	623	604	45.2	52.6
6	初山	250	221	49.7	54.1
7	南平耐火	362	267	59.9	68.6
8	南平第2	168	168	60.4	68.8
9	南平	332	376	29.8	38.6
10	有馬第1	479	461	54.5	61.8
11	有馬第2	513	479	51.8	58.2
12	有馬第3	150	138	43.1	49.1
13	野川西	364	321	58.3	65.2
14	宮崎	58	58	58.2	60.7

区別年齢 3 区分別人口の割合



資料：区別年齢別人口
(平成 29 (2017) 年 12 月末現在)

※ 各年4月1日時点で作成。高齢化率＝住宅ごとの65歳以上の入居者／住宅ごとの全入居者

〔データ2〕川崎市総合計画 第2期実施計画「次世代まちづくり事業」

宮前区は、独自の「次世代まちづくり事業」を市の総合計画に位置付け、地域住民や企業等、多様な主体の協働・連携による課題解決に向けた取組を支援している。

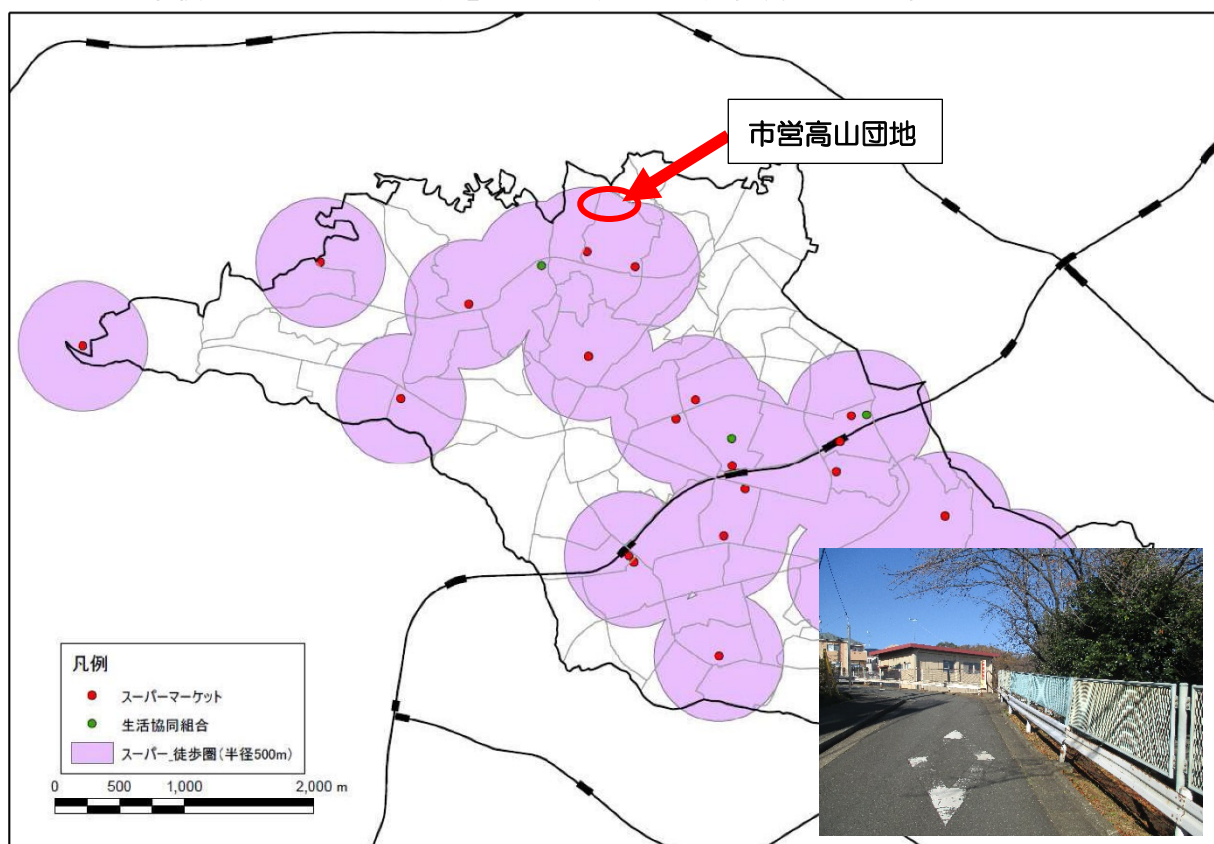
宮前区

事業名	現状	事業内容・目標				
	平成28～29 (2016～17) 年度	平成30 (2018) 年度	平成31 (2019) 年度	平成32 (2020) 年度	平成33 (2021) 年度	平成34 (2022) 年度以降
次世代まちづくり事業 宮前区における次世代につながる暮らしやすさの向上に資する地域主体の取組を支援するとともに、関係局と連携して身近な生活課題の解決に向けた取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民の暮らしやすさの向上に資する地域主体の取組への支援 ○ 地域住民や企業等、多様な主体の協働・連携による課題解決の取組への支援 ・多様な主体の協働・連携による課題解決に向けた検討・支援 (H29) ○ 取組を通じた地域の輪づくりの推進 ・取組を通じた地域住民のつながりづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各主体の特長や強みを活かした適切な役割分担による取組の推進 				事業推進
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域特性を踏まえた身近な生活課題の解決に向けた対応 ○ 課題解決に向けた検討・取組の推進 ・身近な生活課題の解決に向けた調査研究 (H28) ・関係局と連携した身近な生活課題の解決方法の検討・取組の推進 					

〔データ3〕市営高山団地と周辺の大規模小売店舗の位置関係

大規模小売店舗まで徒歩約6分のエリアに入っているが、大通りまで急坂が続いており、買い物に苦労している。

■大規模小売店舗の利用圏域を500m（徒歩約6分程度）とした場合のカバー状況



資料：平成27年川崎市内大規模小売店舗一覧より作成

〔データ4〕試行実施時の利用者の声 ※平成30年9月22日・29日に聞き取り調査を実施

- ・久しぶりに会えて顔が見られてよかった（女性同士が嬉しそうに抱き合っていた）
- ・ライフの配車サービスを利用している（300円かかる）が、今日の販売会で選択肢が増えた
- ・この販売会ができると、選択肢の一つになる
- ・自分が好きなものを選んで買えるので楽しい
- ・地域の50代の方が販売車で回っていたが、うるさくて苦情が来ていた
- ・お彼岸なので、おはぎがあってよかった。お花もあるととってもよかった
- ・お魚がないなら、利用しない
- ・日用品は今も配達に来てくれるが、配達に今まで来ていたのがなくなったので、食料がほしい
- ・坂の下のスーパーからは重いものを持って帰らないので、マルエツの宅配を利用しており、週1ペースでこうした販売会をやってくれるといい
- ・重いものが買えてよかった。普段は出かけたついでに買い物をしているが、運ぶことを考えると、重いものを買うのはためらってしまう
- ・こうした機会が定期的にほしいし、次回も是非、続けてほしい
- ・孫が免許を取ったので、車で買い物に連れて行ってもらっている。車がなくなると買い物は大変で、いつもは息子で頼んでいるが、販売会があったらまた来たい



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

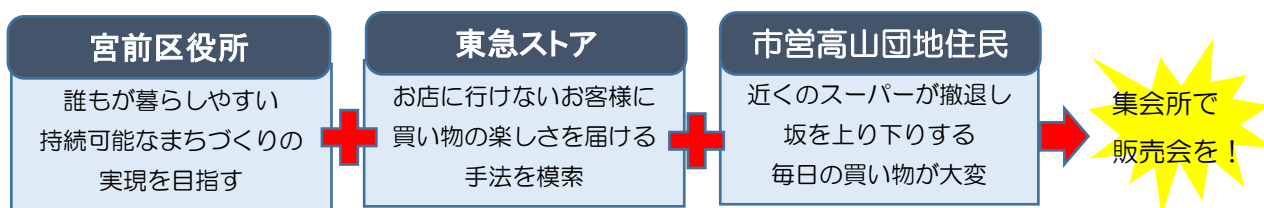
1 アイデアの種

近くのスーパーが撤退し、地域住民の高齢化も進み、坂を上り下りする毎日の買い物に住民が苦勞していたところ、宮前区役所から自治会に対して、市営住宅の集会所で販売会をやってみないかという誘いがあった。

区の担当者によれば、発端は、平成 27 年度に区役所が行った委託調査だという。区が少子高齢化の進展を踏まえ、区内の状況や動向などを調べるためのアンケートや聞き取り調査を東急総研に委託したところ、さまざまな課題や誰もが暮らしやすくなるアイデアが出てきた。その当時、市は東急電鉄と「誰もが暮らしやすい、持続可能なまちづくり」の実現のための包括連携協定を締結したばかりで、東急グループとして何かできないか、という話から、委託調査にあった「日用品購入のサポート」というアイデアの実現に向けて、東急総研が区役所に東急ストアを紹介したのだ。

東急ストアとしても、駅前の一等地にお店を構えてお客を待っている時代ではないとして、新しい販売のあり方を模索していた。東急沿線の高齢化は今後進行し、買い物困難者の増加も見込まれるなか、お店に行けないお客様への様々な対応を考えていかなければならない。「買い物に不便を感じている生活者に、食品・日用品と『お買い物の楽しさ』をお届けする」手法として、店舗からの当日お届けサービス、ネットスーパー、オンラインショップ、FAX お届けサービス、買い物代行・出張販売、移動販売車など、多数考えられるが、宮前区民に対して、何かできないか…。

東急ストアと地域と区担当者との話し合いで、食品・日用品を自治会の集会所に持ち込み、住民と協力して販売会ができないかというアイデアが生まれ、スーパーが撤退し、買い物に苦勞している高山団地にこの話が来た。



2 販売会の試行実施までのハードル

①市営住宅の集会所で販売会を行うことの難しさ

市営住宅集会所という公的な場所で、企業が定期的に販売会をやるのは前例がないそうで、実現まで時間がかかった。当初は、集会所を「行政財産の目的外使用許可」をもらって使おうと考えたが、この販売会は地域住民が企業の協力を得て、自らの生活改善のために実施するものなので、集会所の本来目的に沿うものと整理したそうだ。

また、市営住宅の集会所を使って、カネ儲けをしているという変な話にならないように、東急ストアが頑張ってくれて、他の店舗と同等の価格で販売してくれることになった。販売会の目的を明文化するため、区役所と東急ストアの協定締結も決まった。そのほか、集会所で食品、日用品（生肉・生魚・乳製品等、食品衛生法等の許可が必要なものを除く）の販売が行えるようにするため、東急ストアが区役所衛生課に必要書類を提出し、販売会当日は東急ストアの「営業報告済証」を販売会場に掲示することで話がまとまった。

②販売会の運営を誰がどのように担うのか

販売会の運営スタッフをどうするかも話し合った。「『地域住民』が企業の協力を得て、自らの生活改善のために実施する」という目的を逸脱しないよう、運営の中心は住民有志とするが、商品や金銭管理面での安全性を担保し続けるため、東急ストアから販売補助員に最低 1 人来てもらうことも決まり、試行実施への環境が整った。

3 試行実施を経て継続実施へ

平成 30 年 8 月中旬に試行実施の準備に入った。開店時間や会館内のレイアウトを考えたり、商品を選んだり、全戸配布するチラシを作ったり…。利用者の意見を踏まえて品ぞろえ等を改善できるよう、2 週連続で 9 月 22 日（土）・29 日（土）に実施。初回の反省を踏まえ、2 回目は工夫できる部分の改善を行った。

	第 1 回試行実施	第 2 回試行実施
日時	平成30年9月22日（土） 10:30～14:30（4時間+準備1時間、片付け20分）	平成30年9月29日（土） 10:30～14:30（4時間+準備1時間強、片付け30分）
天候	曇り一時小雨	小雨から雨が強まる （翌日、台風接近の予報）
来場者数	112人 （うち開店1時間以内の来場者67人）	55人 （うち開店1時間以内の来場者33人）
主な品揃え	野菜、果物、米、おにぎり、調味料、飲料、卵、レトルト食品、冷凍食品、菓子、ティッシュペーパー等	初回の品目に加え、半分に切った野菜、もやし・納豆・ハムなどの冷蔵品、弁当、お惣菜、菓子パン等
肯定的な意見	<ul style="list-style-type: none"> 好きなモノを選んで買えて嬉しい 販売会ができると選択肢が増える 久しぶりに顔が見られてよかった 	<ul style="list-style-type: none"> 重いモノを買えてよかった こうした機会が定期的にほしい 先週、野菜が新鮮だったのでまた来た
要望や課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 靴を脱いでお店に入るのは大変 肉や魚を置いてほしい 野菜は半分に切ってほしい パンや惣菜を置いてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> →ビニールシートを敷き、土足入場可に →今後、注文販売できないか検討 →半分に切った野菜や食パン、菓子パン、餃子、さば味噌煮など取扱商品を変更
その他	<ul style="list-style-type: none"> 若手の市職員や大学生がお客さんと会話しながら、重い荷物を持ち、各戸まで運ぶお手伝いをした 出入口でインタビューを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 東急が価格面でも頑張ってくれた。 まずは成功（自治会役員） 難しいが誰かやらないと（自治会役員） 皆が来たい店にしたい（住民）

2 回の試行実施後に振り返り会を行い、今後していきたいこと、それぞれの思いやアイデアなどを出し合った。

今後していきたいこと	それぞれの思いや具体的なアイデアなど
1 販売会の意義の共有 （一般店舗との違いを住民に理解してもらう）	<ul style="list-style-type: none"> 住民側に皆で育てていく販売会だと知らせないと（住民） 東急や区がやってきたことを伝えれば理解が広がる（住民） お店とは違う販売会の意義や目的の共有が重要（東急） 自分たちが担う販売会だという理解を広げてほしい（区）
2 販売会の担い手の確保 （熱意を持った人の輪を広げ、維持する）	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者だけでなく、若い人にも協力を呼びかけたい（住民） 週1回やりながら、核になる人や仲間を作っていく（住民） 少人数で始め、協議会を立ち上げ、将来は自治会合意（区）
3 スモールスタートから 付加価値をつけて理想像に （継続しながら進化させる）	<ul style="list-style-type: none"> 買った荷物を玄関先まで届け高齢者の力になりたい（住民） 近隣の中学生に設営や運搬を手伝ってもらうのも一案（住民） 購入後の配達（事前注文）で肉・魚も扱える可能性有（東急） NPOと連携し、大学生やアスリートの地域貢献の場に（区）

その後、平成 30 年 11 月 30 日に東急ストアと区が協定を結び、毎週土曜日の販売会を継続実施している。

販売会の担い手はまだ少ないし、売り上げも不安定で赤字続きと聞いており、課題だらけだが、この販売会で**住んでいる人たち（特にお年寄り）の役に立ちたいという強い思い**を持つ有志でスタートしたばかり。大学生やアスリートとの連携など夢もふくらむが、**まずは、地域の魅力を高め、笑顔をつなげる販売会の継続**に向けて、頑張りすぎて倒れてしまわないように気を付けながら、それぞれの立場でできることをしたいと思う。